

## 令和4年度第1回生野区区政会議こども未来部会

### 1 開催日時

令和4年6月1日（水） 19時00分～20時37分

### 2 開催場所

生野区役所6階大会議室

### 3 出席者

(区政会議委員) 10名

池原委員、加藤委員、大倉委員、山崎委員、大藤委員、塚本委員、中峯委員  
前田委員、洪委員、森本委員

(区PTA協議会)

倉本会長

(オブザーバー) 2名

宮崎委員、山納委員

(生野区役所) 11名

筋原生野区長、櫻井副区長、上原こども未来担当部長、小原企画総務課長、杉本区政推進担当課長、大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、清水地域福祉推進担当課長、谷上保健福祉課長、松村安心まちづくり担当課長、堀川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、三根生こども未来担当課長（教育委員会事務局兼務）

### 4 委員に意見を求めた事項

(1) 会議の長等の選出

生野区区政会議こどもの未来部会委員名簿

生野区区政会議運営要綱

(2) 令和3年度生野区の実績の振り返りについて

資料1 令和3年度の生野区の実績、振り返りについて(こどもの未来部会:抜粋分)

参考資料1 前にいただいたご質問と区の方針

(3) その他

### 5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令

和4年度第1回生野区区政会議、こどもの未来部会を始めさせていただきます。

委員の皆様、ご多用のところ本当にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私、事務局の生野区役所企画総務課の杉本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年10月の委員改正に伴いまして、委員の皆様のメンバー構成が新しくなっておりますけれども、コロナ禍の中で全体会は開催できたのですが、部会としてはこのたびが初回ということになってございますことから、お手元に部会の名簿をお配りさせていただいておりますので、またご参照いただければと思います。

また本日は、中峯委員につきましてはオンラインでご参加いただきありがとうございます。また後であちらの画面のほうになるとは思いますけど、よろしくお願い致します。

なお、当部会につきましては、地域により身近な区役所が学校運営の支援や学校・地域ニーズに合った具体的な取組を推進していく分権型教育行政における保護者・区民の皆様の多様な意見・ニーズをくみ取るための会議としての役割を担っていただいております。本日、関係者として区PTA協議会から1名の方、倉本様にご参加いただいております。ありがとうございます。また、本日は他の部会からのオブザーバーといたしまして、まちの未来部会の宮崎委員と山納委員にご参加いただいております。ありがとうございます。オブザーバーの方につきましては、部長から求めがあった場合のみ、ご発言いただけるということになってございますので、よろしくお願い致します。

以上によりまして、本日の会議は委員定数10名に対しまして、10名のご出席いただき定数の2分の1以上ということで有効に成立してございます。また、本日の傍聴者はゼロ人になってございます。

区政会議に関する本市の規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等は公開されます。事務局において会議録を作成いたしまして、後日、区役所のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影について、ご了承のほどお願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料について、ご説明させていただきます。

本日のこどもの未来部会とは、主に生野区のこども、教育の分野につきまして昨年度の生野区の取組を振り返り、その評価や課題について委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えてございます。本日の会議でいただいたご意見は、後日開催されます全体会の場で部会としてご報告いただきまして、全ての委員の皆様にご共有いただくことになってございます。

次に、本日の資料について、ご説明申し上げます。

まず左肩に「当日用」となっております令和4年度第1回生野区区政会議、こどもの未来部会の次第をご覧ください。会議の資料をそちらに記載してございます。資料がおそろいでない場合は、手を挙げていただければ事務局からお持ちいたします。

まず先ほど、ご案内いたしました生野区区政会議、こどもの未来部会委員名簿でございます。続きまして、生野区区政会議運営要綱でございます。そして資料1といたしまして、こちらは事前に送付しておりますが、「令和3年度生野区の取組に

ついて」、こどもの未来部会抜粋分というA4横のパワーポイントの資料となっております。そして参考資料1としまして、本日配付させていただいております「事前にいただいたご質問と区の考え方」となっております。それと半ぴらの紙1枚ですけれども、こちら今後、委員の皆様宛に区役所からの区政会議に係る連絡等について、メールでもやり取りできるようにということで、メールアドレスの登録案内の用紙を置かせていただいております。差し支えない範囲でご登録の協力いただければ幸いです。

資料は以上となっております。

それでは、本日は委員改選後、初めての部会でございます。後ほど、委員の皆様方にて部会長と副部会長を互選いただきますが、それまでの間はこのまま事務局のほうで進行を務めさせていただきます。

それではここで、当区の筋原区長よりごあいさつを申し上げます。

#### ○筋原区長

皆様、こんばんは。この4月より生野区長を拝命しております筋原と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、皆様、お仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は今まで、港区そして大正区という海沿いのまちで区長を務めてまいりましたんですけれども、このような生野区のような大きい、そして歴史あるまちは初めてでございます。4月より生野区のほうに引っ越ししてまいりまして日々このまちの人情や活気を実感しながら生活をさせていただいているところでございます。前任の山口区長がご提唱しておりました「全ての人に居場所と持ち場のあるまちへ」ということをしっかりと引き継いで継続していきながら、そしてまた2025年の万博に向けまして、暮らして楽しい、そして遊んでも楽しい、働いても楽しい生野区へとまちを盛り上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の議題は、令和3年度の生野区の取組の振り返りとなっておりますので、どうぞ忌憚のない意見を出していただきまして、これからの区政運営に繁栄させてまいりたいと考えておりますので、本日どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

#### ○杉本区政推進担当課長

それでは議事のほうに入らせていただきます。

お手元の次第の「議事（1）会議の長等の選出」についてでございます。

ただいまより、お手元にお配りしております区政会議運営要綱の第7条第3項の規定に基づきまして、委員の皆様の互選によりまして部会長及び副部会長を選出いただきます。選出後は、それぞれ部会長と副部会長のお席にご移動いただくということになってございます。

それでは、まず、どなたに部会長をお願いするかについてご意見等はございますか。

#### ○山崎委員

僕は推薦ということで、大藤さんを推薦したいと思います。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

大藤委員というお声がございますけれども、ご異議ございませんでしょうか。

(「ありません」との声あり)

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

大藤委員が部会長に選任されました。それでは、ただいま部会長が選任されたので、部会長席へご移動いただきまして、ここからの議事進行は部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○大藤部会長

ただいま、こどもの未来部会部会長に選任いただきました大藤です。

区政会議は、地域でまちづくりを実際に進めている私たちが、区役所と一緒にあって、より効果的・効率的にそれぞれの取組を進められるよう、意見を述べるとともに区政を評価する重要な場です。部会で出された意見は全体会議において報告し、共有することになります。その中でこの部会は、生野区のこども・教育の分野について、有効で活発な意見交換ができるように進めていきますので、皆様ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、副部会長の選出について、進めてまいりたいと思います。

ひとまず私のほうからご指名させていただきたいと思います。塚本委員にお願いしたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

(「ありません」との声あり)

○大藤部会長

それでは副部会長は塚本委員にお願いいたします。

塚本委員、よろしくお願いいたします。

○塚本副部会長

ただいま副部会長に選任いただきました塚本でございます。

公募で2期目ということになりますけれども、1期目は安全・安心部会で健康、あるいは在宅医療というところの観点から区政会議に参加させていただきましたけど、2期目といたしましては、こどもの未来部会ということで、こどもの学習支援といたしますか、そちらで参加させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○大藤部会長

それでは会議の次第に沿いまして、議事2「令和3年度生野区の取組の振り返り」について区役所から説明をお願いします。

○上田企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。生野区役所企画総務課課長代理の上田です。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて、ご説明させていただきます。

これからですが、運営方針で目的に掲げる三つの柱のうち、「子育てにやさしく、教育につよいまち」に関連する令和3年度の主な取組について振り返りをご説明いたします。皆様には振り返りで抽出された課題について、どう取り組むべきか、ど

のように取り組んでいけばいいか、課題解決を迎えるかなどについて議論していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、前のスクリーンのほうをご覧ください。

子育て関連の取組についてですが、子育て応援イベントとして民生委員、児童委員の皆さんを始めとする「いくのっ子」応援事業実行委員会と協力して毎年開催していましたが「いくのっ子広場」については、コロナの感染拡大により中止となってしまいました。密を避けるために屋外での取組として、親子で区内を巡る「いくのっ子スタンプラリー」を昨年度に続いて10月に実施してきたところです。前回の開催時よりも180名ほど多い、900名の方のご参加がありました。今後とも「いくのっ子」応援事業実行委員会を初めとする各施設や団体の皆様と協力して、子育ての孤立を防ぎ、地域全体で子育てをサポートできるように取組を進めてまいります。

ほかにも子育て支援室やこどもの広場の保育士さんたちと共同で作成した生野区絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」を3月に改訂し、配布しております。こちらは子育て支援センターや「つどいの広場」、図書館などで配布しておりますので、小さなお子さんのいらっしゃる方はぜひご紹介いただければと思います。子育て世代の方々に子育て支援施設を利用してもらおうということのきっかけになればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

このほかにも子育てに関する講演会をオンラインで開催いたしました。不登校を経験した方に今だからこそ話せる当時の思いなどについて語っていただきました。ただ、子育て層の方は、やはり人の集まるイベント等への参加を控える傾向にあることから新型コロナに影響されない、子育ての孤立を防ぎ、子育てをサポートできるような取組を今後、取り組めるように検討してまいりますので、よろしくお願いいたします。

続いて、次世代の学校づくりとして、学校配置の見直しでございます。これまで生野区西部地域、学校再編整備計画に基づきまして再編整備を進めてきましたが、今年4月には田島南小中一貫校。小中一貫校大池学園。大阪市初の義務教育学校となる生野未来学園が開校いたしました。また北鶴橋小学校、鶴橋小学校を令和8年4月に再編するための学校再編整備計画を作成いたしました。今後、保護者、地域住民の代表の方からご意見をいただく場として、学校適正配置検討会議を開催し、取組を進めていきます。

次に生野の教育の実現についてです。民間事業者等を活用した課外事業「いくの塾」ですが、本事業は生野区に在中し、大阪市立中学校に在籍する生徒を対象に学習支援、学習習慣の定着、基礎学力の向上を目指すこととしており、生野中学校、巽中学校、区の区民センターの3教室を拠点に開講しており、昨年度は39名の方が受講されました。ほかにも同じく課外授業で「いきるチカラを育む課外授業」の「みらい塾」を大池中学校、東生野中学校、田島中学校、新生野中学校の4校で開講しており、68名の方が受講されました。今、ご説明させていただいた二つの事業については、どちらも学習習慣の定着と基礎学力の向上を目的としている部分が共通するものであり、類似する事業であることから令和4年度には「いくの塾」に統合して一つの事業として実施しております。

簡単ではございますが、以上が主な取組となっています。

最後になりましたが、前に各取組ごとの目標の達成状況についてまとめたものを投影させていただいておりますので、参考にしていただきながらご議論のほう、よろしくをお願いいたします。

○大藤部会長

ありがとうございました。

それでは、これから委員の皆様にご意見交換をしていただきますが、限られた時間で、より円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから学識委員であります森本委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、森本委員、よろしくお願いいたします。

○森本委員 皆さん、こんばんは。今、ご指名いただいた森本と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

皆さん、今から意見交流ということで、そのお手伝いをさせていただきたいというふうに思っています。限られた時間になりますけれども、どうぞ皆さんのご意見をいただいて、この場で今日の目的でありますこども教育について、確実に取り組んでいくにはどうしたらいいのかというあたりを含めまして、今の振り返りのご意見をいただけたらというふうに思っています。

では早速なんですけど、ご意見をいただいてというふうに思っています。ご意見をいただくときは、すみませんが挙手をいただいて、お名前をお伝えいただいてからご発言をいただけるとありがたいと思っています。

今、報告のところでは、こども子育てということで、スタンプラリーのことであるとか、「いくみんのほんだな」のこと。それから今言われました不登校の「あの頃の」というふうなことの報告。それと学校ですね。小中一貫校の大池のこと。それから田島小中一貫校、生野未来学園のこと。あと「いくの塾・みらい塾」ということで、こどもたちの教育のことを振り返っていただきました。それ以外にもいろいろ皆さんの資料にもあるかと思いますが、どうぞ、そのうちのどこからでも結構です。ご意見をいただけたらというふうに思いますので、どうぞ忌憚なく挙手いただいて、ご発言いただければと思います。どうぞ、忌憚なくご意見を。ご感想でもいいです。

○前田委員

こどもの未来部会の前田です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

この今の市の発表の内容を聞いてちょっと疑問に思ったのが、この「いくの塾・みらい塾」に参加しているこどもたちの声はどうだったのかなというものが少し気になります。多分、そのご意見とかが、伺ってるのかなというのをお聞きしたいと思います。

○森本委員

ありがとうございます。

「いくの塾・みらい塾」に、今39名、68名の方がということで来られてますということなんですけど、どなたか来てるこどもたちの意見というふうなこと、ご感想とかいうようなことでご返答いただける方。

○大川地域活性化担当課長

地域活性化担当課長の大川と申します。どうぞよろしく申し上げます。

今、ご質問いただきました「いくの塾・みらい塾」につきましては、冒頭説明させていただきましたように今年度から事業を一本化して進めております。

今のご質問いただきました受講者の声というのは区役所のほうからとっているのはございません。ただ、受講生にやる前とやった後にアンケートというのとはっておりまして、そのアンケートの内容を基に授業をどうしていくかというような形はとらせていただいております。ただ、ちょっと手元にはないんですけども、今年度受講生を募集するチラシの中には昨年度、事業の委託というか協定締結と契約とあるんですけども、その事業者のほうで受講者の声を拾ってもらってますので、募集チラシの中にその受講者の声というのは載せさせていただいて、それで今、受講者は定員いっぱいまでいってない状況なんですけれども、できるだけたくさん周知して、たくさん参加いただけるように取組を進めているところでございます。ちょっと直接の声は、今ないということで申し訳ありません。

○森本委員

ありがとうございます。

前田委員、アンケートはとっていますがということなんです、何かそのことについての、こんなふうにしたらいいかどうか、ご意見があれば。

○前田委員

さっきの達成と未達成の結果もあったと思うんですけど、あれって何か結局、大人目線の達成しているかだなと思うので。こどもたちに、それが本当に効果的であるのかどうかは、やっぱりこどもたちの意見を実際に聞くのが大事だと思うんですね。それを踏まえた上で、私たちがどういった事業を展開していくというのが一番なのかなと思うので、ぜひその声は大切にしていきたいなとは思ってます。

○森本委員

ありがとうございます。

確かに当事者ということが一番重要かというふうに思いますので、事業者の方は受講者の声をキャッチしてくださっているのだということですけども、そのところを一番大事な声として拾い上げていくということ、またこれからもしていければなというふうに思いますので、どうぞよろしく申し上げます。前田委員、どうもありがとうございました。

どんなことでも結構です。「いくの塾・みらい塾」ということでお話を伺いましたが、そのあたりのことも含めて、いかがでしょうか。小中一貫校のことであるとか、子育てのことでも結構です。どなたかご意見をいただけると。

○森本委員

塚本委員、どうぞよろしく申し上げます。

○塚本副部長

小学校の統廃合ですね。安全・安心部会の立場だったときからも、ちょっと気にしていたのが御幸森小学校が統廃合して大池小になりまして、こどもたちが今里筋に渡らなくちゃいけない。すごく距離が伸びてしまったり。中学校の統廃合のこと

もなら、学生さんは大きいんですけど、小学校1年生というのはさっきまで幼稚園だったわけですね。だからなかなかすごく危険を感じる親御さんも多かったです。

あと南巽のほうでも声があったんですけど、内環を渡る小学校1年生の子が、すごく見ていて危なっかしくて、ひやひやするということでそれぞれの場所には見守り、立っている人ですね。ご協力いただいている方々もいらっしゃるんですけど、そこは今現時点でどうなっているのかということがちょっと心配です。

いろいろ声を聞きますと、やはり旗を持ってられる方はPTAの方と町会からの方とやっぱり線引きがいろいろあったりして、全体に見てちょっとここから先に行けないとか、すごく何かうまく、スムーズにいったないケースがあるのかなというふうに思いましたので、そこはまちづくり協議会の視点から、PTAと町会とを合わせるような形で議論が。こことここは必要でないとか、小学校の中心部はいっぱいそういう人がいるんですけど離れると、やっぱり広いので離れるごとにこどもの人数が少なくなってきたりして、見守りの人たちもちょっと一人、二人のためにみたいなところもあるみたいですので。そこは総合的に区役所さんのほうからまちづくり協議会のほうに、ちょっといろいろ提案とか具体的に話し合っておくか、何かそういうことで一回、これから統廃合が続いていくということですので、この時点で何かできないかなというふうに提案させていただきたいと思います。

○森本委員

ありがとうございました。

大きな道路を越えるのは小学校1年生にはなかなか危ないことなのかなということで、見守りをしてくださっているというあたりなんです。PTAと町会のところでぜひ、一緒にということなんです。私もちょっと具体的なことがよく、あれなんです。そういうことって、ご活躍をいただいているもし委員の方がいらっしゃったら日常の中でどんなふうになっているかと、ちょっと教えていただきたい。

大倉委員、お願いします。

○大倉委員

今、上げていただいて意見はまさに今、自分たちにちょうど降りかかっていることで。私は田島小学校の田島地域なんですけれども、田島南小中一貫校になってる、その地域なんですけれども、本当に見守りが困難になりました。前の小学校の周りにはやっぱり安全な場所にあって、見守りもかなりこう、少なくとも効果的に見守ることができてたんですけど、田島小学校が田島中学校に統廃合されたので田島中学校に通うことになったんですけど、田島中学校の周りがかかなり危ないところがたくさんありまして、危ないなと思うポイントがたくさん増えました。今までは、地域の見守りの方が中心にさせていただいていたんですけど、通学の距離も増えましたし、まず場所が変わったので、もともと見守ってくださっていたポイントとまた違う場所に新たに探さないといけないといいますか。でもそれも地域のそういう町会の方々が関わってくださることであつたら、自分が8町会だったら、10町会に出張って行って、見守っていいものかみたいな、まさにそんな感じで、いろんな問題も出てくる。

その進めるリーダー的なものが結局学校なのか、どこなのか。新たにつくってい



かないといけない部分で、地域も一生懸命そうやってやろうとしてくださっているのですが、なかなか進んでいかない状況もあります、私たち保護者も。私は小学生、中学生のこどもがいるんですけども、PTAも本当にあまりにも危ない。信号のない道などを渡って行かなくてはいけなくなったので、本当にそれはPTAの役員の方を中心にもうずっとボランティアで毎日のように立って、自分のこどものほうも見守れてないんですけど、毎日どこかに立って、ずっとこどもたちのことを見ます。本当に負担がすごく増えてしまったり、そんなふうになっていますので、どう進めていったらいいのかという、その私もまさに今進め方が難しく。警察の方も最初のうちはずっと回ってくださっていたんですけども、それもだんだんいろいろな場所に行かれますし。なので、区役所の方が見守ってくださっているポイントもあるんですけども、できれば行政のほうももう少し。距離が長くなって負担も増えて、危ない場所も増えたのでそういう場所に対しての、やっぱりもうちょっとサポートをしてほしいなという思いがすごいです。サポートの方が一緒に見守ってくれることも増えたらありがたいなと思いますし、地域の見守りも確かに高齢化も進んでボランティアでやってくださっている中、あそこもここも立ってくださいということは私たちはとても言えませんし。学校もそれをお願いする立場ですし、そういうことも含めてもうちょっと行政の方にも関わっていただきたいです。

もう一つは、この間の最後の全体会でもありましたけども、とにかく私たちもそうですし、危険やと皆さんが、地域の方も思ってくださいしている箇所がたくさんあって、そこが結局、全然整備されずにスタートしているんです。何か所も信号をつけてください。横断歩道をつけてくださいと、ずっと皆さん、地域の方も保護者の方もお願いをしたんですけども、いろんな理由でできませんと、規制もできませんということで返されていて。その危ない道をどうしていったらいいんやということをやったり突きつけられながら、我が子を守らなアカンし、事故が起きたらアカンという、毎日そういう思いでこどもを見守っていますので、ぜひ、もう一度安全について、生野区の中で危ないなというポイントについて、もう一回見直していただいて、早くそこを皆さんの声を聞いて、警察の方に聞いてできなかったということがたくさんあったんですけど、そんな中でも何かできる手段をとっていただきたいです。保護者が危険やなと思うことに対しても地域の方も見守る中で同じように思ってくださいしている部分について、もうちょっと道路の整備みたいなものも考えていただけたらなと思っています。

#### ○森本委員

ありがとうございました。

大倉委員から本当にね、こどもたちの安全が心配なんですよというお気持ちをいただけたのかなというふうに思っています。小中一貫校になるということで、範囲が広がってしまう。見守りの場所が増えてしまったということなんだろうなと思います。それも当然のこと、そこを取り巻くのが学校、それからPTA、それから町会というようなことで、組織がそれぞれ分断になってしまっている。そこを区も含めて、どうやってまとめていくか。もしくは町会を越えたところについて、誰が言葉をかけていって、一緒にやってくださいと言えればいいのかという、そのあ

たりの課題なのかなと思います。

あと危ないと思っているところ、信号や歩道をというふうに保護者としては思うというようなことを。確かに、一保護者で警察にお伝えしていくというところでは、難しいのかもしれない。そのあたりのところを、区のところと一緒に手伝っていただくことはできませんかという、こういうご意見かなというふうに思います。すぐには、ということなのかもしれないですけど、どこのあたりがこのイニシアチブをとって、まとめて、一緒に相談をしてやっていけばいいのか。そのあたりの少し仕組みが整理されてくると、ちょっと安全に胸をなで下ろす部分があるのかなというふうに思います。

そのあたりですね。どんなふうに再編の中で、見守りの場所が増えていくというあたりですね。区の中でどんなふうに手伝っていただくことができるのか、もしくはどこがイニシアチブをとって動いていっていただくのが一番いいのかというあたり。大倉委員としては、どこがイニシアチブをとってくれると一番やりやすい感じでしょうかね。PTAがとるほうがいいですか。何かその辺はどこがイニシアチブをとって声をかけてくれるのが一番いいかなというふうにお考えですか。

#### ○大倉委員

一緒に話せる場をまずつくっていただきたいです。とにかく始まって学校もばたばたしてて、いろんなことがあるんですということで、学校の一步外までなかなか見ることができなくて。私たちが送り出すのに本当に大丈夫なんだろうかという思いと、いろいろスタートで、いろんな環境に慣れなければいけない子どもたちのことでもいろいろ気をもむのもあります。毎日登校しますし、下校時間もまた違うんですけども、そんな中でこうやって振り返って、話せるような場をつくっていただいて、皆さんで意見を交換しながら話していけたらいいんですけど、その主体となる組織がない。学校は学校で学校生活、学校行事、いろんなことを進めないといけない。なかなか本当に誰にどんなふうに伝えていけばいいのかということ、地域の方もあくまでボランティアの組織として、地域がつくっている見守り隊の主としては町会がしてくださっている部分ではあるんですけども。でもそれをお願いして、こういう安全な地域をつくりたいという主は学校と一緒にということなので。そこはできたけど、事故があったら責任は誰かっていうことでは絶対になくて。もちろんボランティアでしていただいている部分です。だから本当に、難しいところなんです。もともとそうやって通学路の責任は保護者がしっかり子どもについては持っていくべきだし。でもそういう認識はしっかり保護者に持っていただくように学校がしっかり言ってほしいのがあります。それに対して、私たちもどうしていったらいいかわからないのを再編して、新しい学校が開校してスタートしたので、それをちょっと振り返りとかがちゃんとあって、いろんな立場の方と一緒に話せるような場を持っていただけたらいいと思います。

それ以外のことについても、学校がスタートしたからこそ、いろんなものが見えてくるので早く学校再編の振り返りをしながら進んでいかないと、始まって、はい、終わりではないので。本当にスタートしたところから、新たにいろんな課題が生まれ、これはよくないなと思えることがいっぱいありますので、そういう振り返れる

ような場をつくっていただきたいなと思います。

○森本委員

ありがとうございます。

関連した話ということでよろしいでしょうか。

○塚本副部長

言い出しっぺであれなんですけど、今の現状はいろんな学校区の中で多分違うかもしれないけれども町内なら町内会での運用主体があって。PTAはPTAで見守り隊があって。そこの連携がうまくいってないというお声がありまして、町内会でも見守り隊を出している町内会ともう出さなくなった町内会もあるというふうに聞いています。その理由は、じゃちょっと見守りやってくださいよって言った相手の人が見守りしているときにやっぱり事故に巻き込まれたり、高齢の方たちが多いのでそういう方をお願いしても何かあったときに、お願いした町内会の会長なりがそんな責任よう取らんという話になってたり、いろんな事情、事情がばらばらにあるようです。そこはやっぱり地域全体をまとめるような、まちづくり協議会がそうなのかどうかちょっと分かりませんが、代表者が集まってテーブルについて、ここはこうですという話し合いの場は必要だと、お話のとおりだなというふうに思いました。

ボランティアとして立つ人は、ボランティア保険とかそういったものにも入ってもらおう。高くないので、そこはまちとしてお金を出すのかどうかということも含めて、やっぱり安全の担保も必要だということもありましたので、ちょっと言いました。

○森本委員

ありがとうございます。

今、大倉委員と塚本委員からのお話をいただきました。本当に子の安全を守る、こどもたちの安全を守るためにPTAと町会、あと学校ということもあるんですが、そこが本当にどんなふうに関わっていくとか、どんなふうだったら参加できるのかとか、何が課題なのかということが話しできるみたいな場ができるとこどもたちの安全を守っていくということができやすいのになという。そういう非常に前向きな話なのかなというふうに伺ってたんですが、そのイニシアチブがどうも難しいということなんだろうなというふうに思います。

その辺、区のほうとしてはイニシアチブ、どこが取っていくのがいいのかとかです。こんなふうを考えるのはどうなんだろうとかいうあたり、もしその辺の課題について、こんなふうを考えるというようなことがありましたら、お知らせいただけたらいいかなというふうに思いますが。ちょっと皆さんと一緒にテーブルについて、どうしていったらいいのかいう場があることで風通しがよくなるんだけどなということなのかなと思います。

○大藤部長

今の話の中でPTAというのも防犯というのも、もともとはこども見守り隊のスタートというのは、防犯協会からスタートしたはずなんですよ。

そこから僕が小学校のPTAの会長をしているときに、防犯の方がわざわざ説明

に来られて、学校に。各町会から腕章をもらった方を中心としてやってもらう。ただ、こども見守り隊というのはあくまで花の水やりのときとか、お買い物に行くときとかというのが最初のスタートだったんです。朝の見守り等々というのについては、特には書いてなかったんですよ。だから今、立って来てはる人らはほんまに頭が下がりますけども。朝も早くから身近なところで、交通量の多い交差点で旗を持って立って来てはります。中にはやっぱり強引に入ってくる車もあるので、危険やとは思いますが。

ただ、小学校のPTAも中学校のPTAも、それと防犯もみんなまちづくり協議会に入っているはずなんです。なので、まずはまちづくり協議会でしっかり話をしてもらって、それを行政に上げていくということのほうが一番スムーズなのかなと僕は思うんですけど。

○森本委員

ありがとうございます。

私も知らない歴史で、そうなんだということが今分かりましたけれども。今、大藤委員のほうから防犯協会がスタートで、本当に皆さんのボランティアと善意で成り立っているというのがこの見守りということだったんだなということを再度確認させていただきました。

そのことを含めてですね。でも範疇が広がってしまったというあたりのところでどうしていったらいいかということで、それについてはまちづくり協議会さんが皆さん加盟しているんじゃないのということで大藤委員から意見をいただいたのですが、それについてでしょうか。

○大倉委員

本当に頭の下がる思いです。本当に暑い日も雨の日も寒い日も立ってくださって、本当に危ない道路もある中で、ちょっと高齢になってきているけどと言っても、やっぱりこどもたちのためにずっと立ってくださっていて、でも、それと相反するところで責任があるから、何かあったときに立てないわとおっしゃる方もいらっしゃるそうだし、そういうことが実際に起こったらということを思われる方もいて、そんな思いまでなかなか背負わせることではないと思います。その中で保険の話をおっしゃって、どこの地域もそれぞれで今やってくださっている見守り隊の成り立ちがあって、細々といいですか、何とかやってくださっているんだと思うので、どの地域でも見守りとして立ってくださっている方に、そうやって保険がきいたり、そういう方も一緒に守れるような、ちょっとでも負担が軽くなるような部分を入れていただきたいなって、強く思う。本当に何かあるかもしれないと思いながら、一生懸命立ってくださって、こっちもそれをお願いして、もちろん責任を負わせるような立場ではないんですけど、申し訳ないなってずっとありがたいなっている。ぜひ、そういう制度の部分で保険的なものとか、負担が大きくなってしまっている部分とかに対して、行政のほうからサポートみたいな方がちょっと参加してくれて、無理な日は立ってくださったりとか、そんなのが入っていったらありがたいかなと思いました。

○森本委員

ありがとうございます。

関連してということでしょうか。保険のこと、加藤委員、お願いします。

○加藤委員

西生野の加藤です。

保険、うちの場合はまちづくり協議会でボランティア保険に入ってます。

小学校の行事でも何でも使える保険がありますからね。うちは未来学園ができた。学校の周りも本当に歩道がないところです。もう危険、学校の周りが危険ですね。歩道が欲しいなというのはもうみんな言うてます。

○森本委員

ありがとうございます。

加藤委員から貴重な意見で、加藤委員の西生野のまちづくり協議会というのは、ボランティア保険については、もうまちづくり協議会のほうでご準備いただいているというようなことですね。そのご意見はすごくいいかなというふうに思います。加藤委員、もし御存じであれば、そのボランティア保険、社協さんかどこかで入っているかどうか、その辺の何か情報は。

○加藤委員

それは保険会社でそういうふうなボランティア保険がありますよ。安いのでね、割と。2年ほど前ですかね、保険が高くなったからというのでちょっと探してもらったら、そういうボランティア保険というのが安くて、地域全体をカバーできるので。地域の中でやった行事は全部できる。

○森本委員

そうなんです、はい、ありがとうございます。

会社の保険でもということですが、できるだけ保険料は安くで、手厚い保険というのが一番私たちの地域の中では大事なかなというふうに思いますが、そのあたりの社協さんなり、私も社協さんでボランティア保険、私たちがちょっと集会するときに入ったりして、非常に安いお金で入らせていただいたというような記憶もあって。その辺のことも含めて一度、区の方から、そういう情報だとかを含めてもしありましたら、今のご意見に対しての何かご助言なり、お考えをいただければありがたいですが、どうですか。

○大川地域活性化担当課長

すみません、地域活性化担当課長の大川です。

ちょっと保険の関係はあまり詳しくないので調べさせていただきたいと思います。行政としてボランティア保険に加入している分もありますので、そこは調べさせていただきたいと思います。

あとこどもの通学の安全につきましては、まず学校再編は置いておきまして、今、大阪市の取組としては、「通学路安全プログラム」というのを全市ベースで回しています。各小学校といっても区内の小学校を順番に危険箇所の確認というのをやっていきまして、そこに対する対策。どういう対応ができるかということをお役所が日程調整を行う事務局をやっています。あと道路管理者である建設局、交通管理者である警察。あと教育委員会が大阪市全体の事務局を担っていただいているんですけ

ども、そういった中で各小学校の安全対策というのは確認をしながらやっていっているという仕組みがあります。ちょっと見守り隊の話とはそれてしまうんですけど。

あと学校再編に係るところにつきましては、大倉委員にも会議に参加いただきまして、毎回非常に時間を頂戴したところなんですけれども。学校再編に関わる部分につきましては、これまでの通学路から新しく学校の場所が変わるということでルートが変わった。今まで通らなかった道を通らないといけないということで、PTAの方ですとか、地域の方ですとか、一緒にその新しい通学路になるルートを歩いていただいて、その意見を頂戴しています。例えば、ガードレールを設置してほしいということだと、ハードルが高い。実際につけることは非常に難しいですけども、道路の幅ですとか、周りの環境によってできる対策は限られてまいりますけども、例えば、ガードレールの設置ができなければ、次に代わる対応は何ができるか。それもできなければ何ができるかというのをランクといたらおかしいんですけども、ランクは下がっていくんですけども、できる限りの対策をとる形で進めてきたところなんです。ただ、やっぱりそういったもともとこういってことで危険だから、こういうことができないかといったご要望に対しては、ストレートにその対応ができていないわけではないということで、非常にご心配をおかけするところがあります。

例えば、生野未来学園のほうですと、新しいPTAが組織された中で、PTAの常置委員会の中に、そういった通学路の安全対策、通学路の安全対策常置委員会を設置されたというふうに聞いております。PTAですので、もちろんその中には学校の先生も入っておりますので、そこで開校後のそういった安全対策の確認とかもいただきながら、その中で出てきた話については我々も話をお聞かせいただき、次何か対応ができそうでないかということであれば、その取組を進めていくという形で話をさせていただいているところです。

そこで田島南小中一貫校のほうでもまたそういったPTAで正式に常置委員会としてなかったとしても、PTAの中での議論とかそういったものがございましたら、私どもにお聞かせいただけたらなというふうに思っております。

あと見守り隊の関係、大藤委員から、部会長からご説明いただいた防犯協会がスタートしたということ。私もあまり詳しくはなかったんですけど、この間そういった話を聞かせていただいたことがあります。今に至る経過の中で、例えば、まち協が主体で見守り隊を組織していただいている地域ですとか、まち協とは別で多分、防犯の方たちが中心かもしれないですけども、別で見守り隊を組織いただいているところ。また今回の学校再編に伴って、新たに見守り隊を組織、結成いただいた地域とかいろいろございます。今現在の田島南小中一貫校、生野未来学園、あと大池小中一貫校につきましては、今見守りいただいている中で、なおかつ私どももこれまで再編の議論の中で、やっぱり気になる部分というのはございますので、今年度始まってから警察のほうも今、立っていただいておりますけども、我々区役所と教育委員会のほうで協力しながら気になるポイントとか、そういうところは今、立たせていただいているところです。そういった今、我々としてもできることをやらせていただきながら、様子を見させていただきながら、ここはやっぱり何かもっと対応が

必要じゃないかというところがありましたら、そこはきっちりと先ほど申し上げました道路管理者である建設局、交通管理者である警察、その辺にもまたあらためて要望を上げて、できる限りの対応を検討していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○森本委員

ありがとうございました。

今返答いただいたのは、ちょうど市のほうで通学路安全対策ということで進められているということですので、ぜひ、そのところも活用いただいて、大倉委員とかが心配している、ここは大変だよと思っているようなところを少しご提案いただいてというか、通学の安全対策のところのこのところを考えてほしいというようなこともアイデアとして出していただいて、市と警察とを含めて動いていただけるようにご尽力いただいたらいいのかなというふうに思います。

あと成り立ちが随分違うということも今、あるのかなというふうに思いますので、まちづくり協議会さんによって動き方が違ったりというようなこともあるのかなとか。さっきの話だと、生野未来学園さんはPTAでも常置委員会を立てられているという、その辺の立ち方が一律ではないんだなということもあるのかな。ご自身のところで立っているまちづくり協議会や学校がどんなふうに考えているのかというあたりを少しずつ一緒に考えませんかというようなところで、ご提案していただくということになるのかなと。

○大倉委員

今のお話を聞いていたら、結局はこちらに丸投げされて、各地域、地域で考えてやって、それで何か意見が出たら、また出してくれたらやりますよって。毎回そうなんですけど。結局、なかなか主導もとれない中、皆さん困っているよというお話があった。そしてそうやって皆さんを守るようなそういうことに対して行政のほうからもうちょっと主導をとって、保険もそうですけれども皆さんが動きやすいような新しい組織のつくり方。それぞれの地域に合わせてはそうなんですけども、こういうやり方がありますよとか、そういうのを提案していただけたら。

本当に「困ってたら言ってきてください」じゃなくて、この再編で、「新しい通学路で学校が始まってみて、2か月経ちました、どういうふうになりますか」って、こっちに問いかけてほしいです。私たちにやってはるからいいやんという、すみません、私にはその言葉しか聞こえなかったんですけども。何かそこがちょっとやったださっているようで、結局私たちが求めていかないとやったださらない。でもその声に関しては、私たち上げてますよね。ここ危険やという話も、検討会議のときからずっと上げてますし、でもなかなか変わらなかった。でもそのことが実際、こどもたちを通わせていくような段階になっても、やっぱり危険やなと思うってなれば、やっぱり動いていただきたいですし。一番最初の大川課長の話にもありましたが、学校、学校を回ってくる建設局、警察とか皆さんが一緒になる、何ですかね。

○大川地域活性化担当課長

通学路安全プログラム。

○大倉委員

安全プログラムの話は前も大川課長に聞いたことがあったけど、私に関わってから一回もそれが回ったことがないので、今、この再編して変わった学校に対しては、すぐにそういう会が開かれるように1年、2年先みたいなの、とんでもない話なんです。そういうのじゃなくて、実際変わって、急にやっぱり変わったという状況がありますので、それに対してそういう場が開かれたりするなら意味があるかなと思います。それぞれの地域でのやり方も違いますし、そういう中なんですけど、皆さんの課題としてはやっぱりこれで大丈夫なんだろうか。やっぱりそれを変えるのは行政の力を借りないと難しいなということがあるということなので、私たちからの声が上がればという話ですけども、そこをフィードバックする中で、「始めてみたけど、こういうこと困っているんじゃないですか」とか、「通学路のことでどうですか」って、一緒にもうちょっとそれをさらによくしていくための、そういう一緒になってもうちょっと考えていただきたいなと私は思っているんですけど、すみません。

○森本委員

ありがとうございます。

○塚本副部長

この席に座ってあれなんですけど、私の一番最初のご提案なんですけど、今PTAだとか町内会だとかそれぞればらばらになっているのを区の、区役所の方がまちづくり協議会のところぐらいに声かけだけ。「見守り、何とか地域でお願いできませんか。お任せしますので、すみません」という、その一言だけで。区役所の方が全部関わっていくということではなくて、声を投げかけるだけでみんなガッとまとまるので。お願いベースで区長さんからとかでもいいですけど、どこに言うかは多分、まちづくり協議会のほうは区役所さんも言いやすいのかなというふうな気がするんです。その一言だけちょっと投げかけていただいたら、あとは我々で何とかやったるわという人ばかりですので、それをお願いしたいというのが一番最初のお願ひでした。

○森本委員

ありがとうございます。

それぞれの委員の方から、今の実情ということでお聞かせをいただけたというふうに思います。その中で、精いっぱいやっていますということだとか、やっぱり一緒に考えてほしいんですというラブ・コールはすごくよく伝わったかなという気がいたします。

○池原委員

舍利寺の池原です。よろしくお願ひします。

先ほどから、大倉委員のほうからいろんな話がありましたが、私も大倉委員と一緒に学校再編反対をずっとしていた者なんですけれど、ただ何で反対かというのはやっぱりうちの地域から生野未来学園のほうなんですけれど、すごく遠過ぎると。遠くて、やっぱり遠いところには何か支障があるんじゃないかと。メリットよりもデメリットのほうをすごく考えていて、危ない。危険な箇所もすごく多いんですよ。そういうところでね、見守り隊の人からも声がかかりました。お手伝いしてもらえ



ませんかと、地域のほうに。でも時間が結局、通学する時間が早くなるんですよ。今までどおりの時間じゃなくて、私たちには一番忙しい時間をお願いできませんかボランティアを、ということなので。それはちょっと違うやろうと。それって学校再編をされた行政のほうで見守り隊を出してくれはったらいいんじゃないんですかということはずっと訴えてきたんです。

でも学校が始まって、行政のほうからも警察のほうからも出てたんですが、先ほど言うてた安全のラインですね。グリーンラインを引いてくれているんです。ここからはこどもたちを守るラインです、ガードレールの代わりでしょうね。ただ、そのラインが溝の10センチ、20センチのところをラインを引いてて、電柱にぶつかっている。そしたら電柱のところではどっちに行くの、という感じでね。西生野さんはすごく見守り隊の人が増えたというのは聞いているんですけど、舍利寺のほうからは全く増えず、一人だけ家の前辺りを立ちますという人が出てきただけで、今までどおり変わらないんですね。だから何ていうのかな。行政が大倉委員が言うてはったように、もっとこっちに歩寄って、「こうしたいんですけど、ご協力できませんか」とか、そういうこともなかったです。いずれにしても一番現役で子育て真っ最中の大倉委員の言うことだから、私たちはもう子育ても終わっているのですね。落ち着いて、もう見守るだけなんですけれども、その見守るだけなのに見守り隊はやっぱり不可能だということを現状はそういうことで考えてほしいかなと思ったりもします。

○森本委員 ありがとうございます。

池原委員からもやっぱりこどもたちを守りたいという思いはあるということ。だけど時間がずれちゃうと、ボランティアで行こうと思っても行けないこともあるというあたりですね。それも含めてこどものことを区のほうからもこの声を受けて、積極的に関わってきてほしいし、ラブ・コールを受けてほしいなという、そういうことかなというふうに思います。ぜひ区の方には、その思いは受けていただいて、必要なところに必要な形でお声がけいただくとか、ご依頼いただくとかいうふうなことで関わっていただくというようなことをこの部会としてはあらためて、生野区のほうにお願いしておきたいというふうに思います。

いろいろこの再編のこと、それから安全のことについて、命に関わることで大事な意見をいただきました。何度もご発言いただいて本当にありがとうございます。

では、それ以外、ちょっと時間が少なくなってきましたので、学校再編のこともあるんですけども、子育てとか不登校とかですね。このあたりのことを含めてこどもの未来というあたりのところで報告いただいたことでも結構ですし、それ以前に頂いている資料のあたりから何か違うご発言等いただける方がありましたら、ぜひ発言いただいてない方を含めて、ご発言をいただけたらありがたいなというふうに思っています。いかがでしょうか。

○洪委員

すみません、遅れてきましたので映像を見てなかったもので、ちょっとずれることがあるかもしれないですけども、今の話もそうですが、やってみて少し経たない

と分からないことも結構ありまして。何でこどもが悩んで、親も悩んで、地域も悩んでいるかというのは、やはり最初はこういう予想でこうやろうと思うことが結構違うということがあるので、やはり全てにおいては振り返り。先ほど、大倉委員がおっしゃってましたけど、どうですかというような形で確認をとるって大事ななと思っています。先ほど、前田委員も言ってましたけれども、こどもの意見はどうやったのかなというので、さっきの安全もそうですし、こどもと一緒に回ったのかなとか。やっぱり下校は登校よりすごく危なくて、以前私はこどもたちを上から見てたら、どこ通ってるねんというようなところを通してしまふんですね。朝は誰かがいてるので。また、統廃合になって5年目の学校でまた通学路が変わったんですよ。やはり危険な箇所が、でもそこを通るしかないということでやってたんですけど、やっぱりトラックがすごく通る。工場があったりとか、それは仕方ないことですよね。やはりここは通学路ですから安全に通ってくださいと言うててもトラックは大きいのです。だからやはり学校からの意見をもらうし、こどもからも。私はこどもと一緒に町を歩いたらいいんじゃないかなとちょっとやっぱり思っているんですけど。

それを含めて、次世代の学校づくりも私、テーマからしてずっと言うてたんですけど、未来を生き抜かなあかんのかなと思って、「生き合う」とか何かそういうための力の育成ということで、生野区はでもずっとそういうのを目指してたんと違うかなと思っているんですけど。そこもこどもたちが学習を、いくの塾ですごく頑張ってるし、少しずつ集まってきて、こどもたち頑張っているんですけど、定着をするためにはどうせなあかんのやろうって。本当は学びたいけど定着する環境にないとか。何かそれを同時にその家庭を応援するという、同時に保護者を応援するというので、こどもたちの学習を応援するということはできないのかな。だから親の居場所とか保護者の居場所とか、一緒にしたらもうちょっとこどもが参加するんじゃないかなというのは。だから今、ヤングケアラーとかいろいろあると思うんですけど、やはりこどもたちの声をどう聞くかということにかかっているんじゃないかと思っています。やはり一回、一回丁寧にこどもの声を確認する。通学路に関してもこどもに確認をすとか、そういうスタイルをとっていったほうが。こどもの言うことなかなか聞き取るのは難しいと思うんですけど、でも絶対真実が隠されているので聞いてみてもいけるんじゃないかな。そこで一生懸命、今生野区がやっていることがもうちょっと具体的に動くし、区役所の皆さんも役所としてできることをもうちょっと具体的に見せることができるんじゃないかなと少し思いました。

全てにおいて、やはり私たちはこどもの未来を考える部会なので、もうちょっとこどもに聞いてもいいんじゃないかなというのは少し…。1年と6年でも全然違うし、中学生と6年生は全然違いますし。でもそのこどもたちが生野を出ても、生野に戻ってくるというものをつくらないと、だから学校とか地域がそうやって見守り隊を入れて、ずっと見守ってくれているという安心なこととか。統廃合がなかったときはこどもの顔と名前を覚えてはったと思うんですよ、地域の人たちが。今もそうやと思うんですけどね。でも広がってしまって、だから統廃合がやっぱり小さいから、少ないからあかんということやっぱりなかったん違うかなとすごく思いま

すし。だからもうちょっとこどもの声、保護者の声。勉強もそうですし、やっぱりしんどい保護者を支えるという意味で。あと外国の人とかも増えてきていますので、区役所としてサポートできることをもうちょっと分かりやすくしてもらったら、私たちももっと頑張りたい、頑張っていると思うんですけど、皆さん。頑張りたいなと思います。

○森本委員

ありがとうございました。

振り返りのことであるとか、あと洪委員からは面白いなと思いました。「生き抜くのではなくて、生き合うのがいいんじゃないですか」、これ生野的にはすごくいいかなと私も今聞きながら。生き抜くよりはみんなで生き合おうというか。それこそ、みんなの居場所があって、持ち場があるというところでは、そういうテーマも素敵やなと今、思いました。

そんな中で学校再編のことはありましたけれども、もう一つ今出てたのは、こどもたちの意見、当事者の意見を聞いていく。それは先ほどの前田委員も同じですけども、こどもたちがどう思っているのかというようなことを本当に拾ってけるといいなという。そこは大事な事かなということと。

もう一つ、親の居場所、保護者の居場所というのがあるといいのかなという意見が出たんですが。これもまた素敵やなと思ったりするんですね。子育て中の親というあたりでは、子育て支援があるんですけど、もうちょっと大きくなって中学生の親。PTAはもちろんあるんでしょうけれども、そういう場所ではなくてちょっとほっとできるような親の居場所とか、保護者の居場所。そんな中で小学生、中学生を育てていく。ざっくばらんに自分のこどもの不安がしゃべれたりとか、そういう場があると随分違うのかなということも、これも生野区テーマとしては素敵かなというふうに思ったりしました。

これに関連して、どなたか親の居場所や保護者の居場所、こんなあるよとか、こんな部分提案できるんじゃないとかいうのがもしあれば。

○池原委員

はい。私は5年前にこども食堂を舍利寺地域で始めました。統廃合のために閉店ということで、この3月で閉店したんですが。現に不登校のこどもさんがいはったんです。それでね、中学校のほうで生野未来学園ですね。そこでカウンセリングをお母さんをお願いするより私がカウンセリングでどういうふうにしたらいいかなと、今の子育てというのがもう大分前のことなので分からないので私が聞きたいですと言ったら、案の定駄目ですよ。保護者か本人しか駄目ですよと言われてしまったんですが。地域でこういうおばちゃんがいる、だからそういう人が相談するところも欲しいかなと。何か、できたら地域でそういう不登校にならずに全員が楽しく学校に行けるようになるためにはというふうに思っているんで、そのカウンセリングも一つなんですけど、何か私たちも行けたらいいなと思いました。

○森本委員

ありがとうございます。

とても素敵な意見だと思います。こどもたちの居場所、不登校のこどもたちのど

んな居場所をつくるのか。そのために自分たちのスキルアップをどうしていったらいいのかということかなと思います。ぜひ、区役所の方々、またそうやって対応しようと思っている大人の学びの場とかいうようなことも考えていただけたらありがたいし。そうやって様々にこどものことでやろうとしているというようなことをぜひ、評価もしていただきながら不登校のこどもたちの場、行く場というあたりもいろいろと。そこは社協のところでいろんなことごとに取り組んでいらっしゃるといふのがあると思うんですけども、情報が私たちのほうへまた返ってくるというのかなと思います。今、池原委員からよかったなという思いをさせていただけて、よかったです。

最後に今日、オンラインで中峯委員が入ってらっしゃるといふことなんですが、何か一言ご発言いかがでしょうか。

○中峯委員

すみません、オンラインで失礼します。お願いします。中峯です。

統廃合とかすごい今、4月から増えて、私の息子が今小学生と中学生なんですが、小学生は東桃谷のほうに通ってます。今年から統廃合はなっていませんが選択制が取り入れられるようになって、やはりちょっと人数が増えて、遠いところから来られている方たちもたくさんいて。私の友人も違う小学校区から来られているのを見て、私の家に集合して、うちの5年生の息子が先頭に立って、勝手に何か引率してチームをつくるみたいな感じで登校させたりもしているのですが。

私の父親もずっと地元で見守り隊を何十年とやっていて、先ほど見守り隊のお話を聞いて、まさに私の父の話だなと思って、すごいなずいて聞かせていただいたんですけど。やはり時間帯が、こどもがいてる親御さんたちにはとてもちょっと見守りたい気持ちがあってもできる時間じゃなかったりとか。すごいばたばたした時間に行かないと駄目というので。私も行こうかなと、父の大変さも見てたので行こうかと思ったこともあったんですけど、自分も仕事に行く用意をしないと駄目だったり。なかなか見守りに行けなくて、人数も少なくなっているのでも、そんな大変そうなのを見ていたので。でも別に何かそれで動こうと思っていたわけではなかったのですが、今そういう話を聞いていて、そういうすごくいろいろあるんだなと思って、行政にお願いされたりとかして確かにと。動いていただいたら助かる人たちにはすごくいいのになって感じました。

あと私、今天王寺区のほうで親子広場を運営してまして、親御さんの居場所づくりみたいなことをちょっと力を入れて取り組まさせていただいているんですが、私生まれも育ちも生野なんですけど、生野区のほうで親子広場をちょっと開設できなかったのが天王寺区でしているんですけど、高架を越えて、こっちと向こうと何か全然違うんですね。何が違うかという、まずこどもの人数が違う。小学校のこどもたちの人数の多さは、遊びに来られるお母さんたちに人数の話聞いて、いつもすごくびっくりして。5クラス、6クラスが普通だったりとか。それに比べて生野区は統廃合でずっともめていたりとかして。すごく生野区は住みよいし、いい町だと思ってしまうんですけど。なぜこんなにも違うのかといつも話を聞きながら思っていて。文教地区がどうだとか天王寺区は言われているんですけど、逆にずっと天王寺区に

住まれている方は生野区に引っ越そうかなと言われていた方もやっぱりたまにいらして。私も息子が今ちょうどコロナの時期に小学生で3人いたたので、人数が少ないおかげだったのか、オンライン授業を取り入れてくれるのがすごく早かったり、タブレットの配布がすごく早かったり・ちょうどその時期に天王寺区で仕事をしていると、全然そんなタブレットも回ってこないとか。これは人数が少ないおかげで、そういう手が回るのかなと思ってすごい感謝したところではあるんですけども。

何か、親の居場所という面では天王寺区のほうでお仕事させてもらってても、それは必要やなと思っていて。だから生野区のほうでもそれは必要じゃないかなと思って、保育所とか保育園事情とか生野区の事情が今、よく分かっていないですけども、天王寺区のほうではすごく保育所がどんどん増えてきている、こどもが増えてきているので新しい小規模園とかが増えてきたりしているんですけど、生野区の今の保育園事情はどうなってるのかなというのをちょっといつかこの会議の中で聞けたらいいなと思うんですが、またの機会にさせてもらおうと思います。

#### ○森本委員

ありがとうございます、ご参加いただき。

いろんな意見、案をいただけてよかったと思っています。また親の居場所というところにいただけてよかったです。保育所がどうなっているのかというようなことでした。私のほうも保育所ですので、またそこについてはご報告もさせていただけるチャンスがあればそうさせていただこうというふうに思いました。

お預かりしていた時間を超えてしまいました。うまく皆さんにご意見いただくことができなかつたことはおわび申し上げます。でも私としてはいろんな意見を聞かせていただいて、今日の時間は有効だったかなというふうに思います。

というところで少し遅れましたが、マイクを部会長のほうへお返ししたいと思います。皆さん、ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

#### ○大藤部会長

森本委員、ありがとうございました。

ちょっと時間を超えているというふうにお聞きしていますけれども、せっかくこの会議にお二人、ご参加されていますので一人、少しずつでもお話しいただいたらどうかなと思うんですけど、お願いできますでしょうか。

#### ○山納委員

オブザーバーで参加させていただいた山納です。

今日のお話、そうですね。見守り、統廃合による通学路の変わった見守りという問題がすごく深刻な問題というか、現場に支えられている問題だなということがよく分かりました。この何ていうんでしょうかね。すごく稀有な人とか奇抜な人に支えられているシステムって、デザインじゃないなと思って聞いているんですね。そういう人がいなくなった途端このシステムはもたんぞ。じゃこの問題はどうやってデザインで解決するのか。デザイン的なことを考える仕事をしているので思います。

実現できる可能性があるかどうかはさておき言ってしまうと、例えば、7時50分から8時10分の間に信号がすごく赤になる、車が動かないというふうに変えてしまうとかですね。こどもたちを観察していると、同学年でちょけたときにヒヤーと言

って車のところにピヤッと出ると。じゃ通学の単位というのはあまり同学年を混ぜないように班編成を変えろということをする、もうちょっとコントロールできるのではないかとことを考えたり。先ほどありましたけど、実は、登校のときより下校のときのほうが危ないという話であつたりということをよく見ていく。危ないということは非常にむちゃな運転手がいて危ないなのか、こどもが予想もつかない動きをするから危ないのか。どう危ないのかみたいなことを、道が狭いから危ないのかやったら、さっきの話。通学路を変えたほうがいいのか、などあるのだと思います。だから問題を解決する方法の話というものをどんどん出す必要がある。誰が出すことができるんだらう、誰が出す必要があるんだらうということを考えながら聞いていました。

行政の方への期待というのが非常に強く感じたんですけども、やっぱり行政の方の立場になって言いますと、めったなこと言えないはずで、行政の方は。これがいいじゃないですか。じゃ、やってくださいと絶対言われるんです。ですので、誰がひらめくべきなんだらうと思って、はてなを浮かべながら話を聞いていて、でも誰かがひらめかないといけない。ここでなくても全国の誰かがひらめいていて、こんな方法があるというのがあれば、それを参考にすることでも問題は解決に向かっていくのではないかなと。そのための話し合いはやったらいいんだらうなというのを聞いていて、もやもやとしていたというのが感想みたいな意見です。

○森本委員

ありがとうございます。

○宮崎委員

生野区の、未来ということになってきたら、今このところに住んで町会でも載っているように生野の人口は減ってきて。生野区のこどもの割合も毎年減ってますね。これまた今度の新しい国勢調査ではもっと減っていると思いますねん。だから、生野区で子育てしたいと、生野で暮らしたいと、そういうふうにはやらんことには生野区の未来はないんやけどね。あまりにも実際そういう問題として、やるということがあまりにも大きいとか難しいとか。こどもの交通安全いろんな問題もあるやろうし、今言う学力ですか。ああいうのもほかより悪くないとか、ちょっとでもいいとか、そういうふうにならんことには。一番僕、思っているのは、今これからこどもをつくったり、こどもを育てる人が生野区に住みたいと言うてくれんことにはにっちもさっちもいけへん。天王寺区の学校に行くんじゃなくて生野区の学校に行くほうがいいでというようなことになれば一番ええわけやけどね。そやけど、そんな問題の難しさというのはもうほんま、そんな生易しいことじゃなくて、あまりにも難しいからね。そやからもっと身近にもっと小さいことでちょっとでも生野区、この頃明るくなってきたとかね、ちょっとようになってきたとか、何かそういうふうな光が出せるようなことをやってほしいなと、できたらなと思うんやね。そやけどなかなかね、生野区は大阪市内でそんなに地理的に悪い条件じゃないのにね。生野区の住民の数が減って、ほんで生野区で子育てする人が減っているということに対して、具体的にね。せっかくこの区政会議をやっているんやから、何かそういうことにちょっとでもプラスになることを提案できて、具体化したいな

と思って、これちょっと頑張ってみているんですけど、そやけどなかなか難しいですね。

○大藤部会長

ありがとうございました。

この部会メンバーじゃなくてもここに参加して、お話を聞かせていただけるというのは本当に貴重な機会だと思いますので、本当に感謝しております。ありがとうございます。

実は私が中学校のPTAになってすぐに校長先生にお願いしたことが一つあります。それは中学3年生で高校生になるときに、行ける学校に行かすのじゃなくて、行きたい学校に行けるようにしてほしいと、それをすごくお願いしました。そこから多分、中学校の中身が変わっていったんやと思います。巽南の地域なので、学校の名前を出してしまいますと、新巽中学ですけども。本当に、もう僕は60歳の定年になったら辞めると言うてはった校長先生がそこから先、再任用までされて、今年港区の学校で退職されました。やっぱりPTAもそういうふうに押してあげると、学校の先生もやる気になってやってくれますので、ぜひ皆さんも地域で学校の先生、特に管理職の先生を押してあげてください。変わっていくんじゃないかと思います。それが生野区に住みたいというふうに変ってくるような地域になってくるんじゃないかと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

では、ここで事務局から連絡事項があるので、お願いします。

○杉本区政推進担当課長

委員の方を初め皆様、お疲れさまでございます。

本日いただいたご意見につきましては、次の全体会で部会として報告いただくことで、他の部会の委員の皆様にも共有していただきたいと思います。

報告内容につきましては、事務局でひとまず整理いたしまして、部会長や本日進行を務めていただきました森本委員と調整させていただきますので、よろしく願いしたいと思います。

事務局からの報告は以上となります。

○大藤部会長

それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いします。

○筋原区長

皆さん、長時間、熱心なご議論ありがとうございました。

特に通学路の安全に関して、本当に皆様方のご心配、心からの痛切なお声を聞かせていただきました。私は今までの大正区、港区では公と民と地域の連携ということをつらねて区政、まちづくりをやってきました。これは先ほども山納先生のほうから行政はなかなか物を言いにくい。言えば、それをやれという、関係なくて、できるだけフラットにですね。お互いアイデアを出し合って、対話をしながらですね。共通の目的に向かって進んでいくという形で、そういうところを目指してきたつもりでございます。本当に、まだ4月に来て、今までの経緯もあるわけですけども、できるだけ対話をさせていただきながら、そして区と皆さんと信頼の関係を少しでもまた強く築いていけることができるように全力を尽くしていきたいと思っ

ておりますので、どうぞ引き続きお力添えをよろしくお願い申し上げます。

本日は、本当に貴重なご意見をありがとうございました。

○大藤部会長

ありがとうございました。

区政会議は、生野区の将来について区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。また、6月14日火曜日には、第1回全体会議の開催が予定されておりますので、今後も活発なご意見をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて本日のこどもの未来部会を終了します。皆さんお疲れさまでした。